イエスを否認し、激しく泣くペテロ

ルカ福音書22:54-62
（新改訳2017訳）

22:54 彼らはイエスを捕らえ、引いて行き、大祭司の家に連れて入った。ペテロは遠く離れてついて行った。
22:55 人々が中庭の真ん中に火をたいて、座り込んでいたので、ペテロも中に交じって腰を下ろした。
22:56 すると、ある召使いの女が、明かりの近くに座っているペテロを目にし、じっと見つめて言った。「この人も、イエスと一緒にいました。」
22:57 しかし、ペテロはそれを否定して、「いや、私はその人を知らない」と言った。
22:58 しばらくして、ほかの男が彼を見て言った。「あなたも彼らの仲間だ。」しかし、ペテロは「いや、違う」と言った。
22:59 それから一時間ほどたつと、また別の男が強く主張した。「確かにこの人も彼と一緒だった。ガリラヤ人だから。」
22:60 しかしペテロは、「あなたの言っていることは分からない」と言った。するとすぐ、彼がまだ話しているうちに、鶏が鳴いた。
22:61 主は振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」と言われた主のことばを思い出した。
22:62 そして、外に出て行って、激しく泣いた。

【祈りながら考えよう】

（１）召使いの女の発言に、なぜペテロは主イエスを否認したのですか。
（２）３度も否認したペテロは、主イエスに見つめられて、外に出て激しく泣いたのはなぜですか。
（３）３度の否認を予告された時、ペテロは主の予告の御言葉にどう対応すべきでしたか。

【解　説】

（１）主イエスを否認する

《彼らはイエスを捕らえ、引いて行き、大祭司の家に連れて入った。ペテロは遠く離れてついて行った。人々が中庭の真ん中に火をたいて、座り込んでいたので、ペテロも中に交じって腰を下ろした。すると、ある召使いの女が、明かりの近くに座っているペテロを目にし、じっと見つめて言った。「この人も、イエスと一緒にいました。」しかし、ペテロはそれを否定して、「いや、私はその人を知らない」と言った。》(54-57節)

主イエスはとらえられ、大祭司カヤパの官邸に連れて行かれた。その後を追うように《**ペテロは遠く離れてついて行った**》。

主イエスはそこで開かれたユダヤ人議会で裁かれていたが、ペテロは、《**中庭の真ん中で火**》にあたってからだを温めている人々に混じって、そこに座っていた。

すると大祭司の官邸で働いている《**召使いの女**》が、火の明かりを受けて座っていたペテロを見つけ、彼の顔をじっと見詰めて、「**この人も、イエスと一緒にいました**」と叫んだ。あわれなことに、ペテロはそれを打ち消して「**いや、私はその人を知らない**」と言ってしまった。

（２）３度も否認する

《しばらくして、ほかの男が彼を見て言った。「あなたも彼らの仲間だ。」しかし、ペテロは「いや、違う」と言った。それから一時間ほどたつと、また別の男が強く主張した。「確かにこの人も彼と一緒だった。ガリラヤ人だから。」

しかしペテロは、「あなたの言っていることは分からない」と言った。するとすぐ、彼がまだ話しているうちに、鶏が鳴いた。主は振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」と言われた主のことばを思い出した。そして、外に出て行って、激しく泣いた。》(58-62節)

しばらくしてから、ほかの男がペテロを見て、「**あなたも彼らの仲間だ**」と言った。ペテロは再びそれを打ち消して、「**いや、違う**」と言ってしまった。

それから１時間ほどしてから、また別の男が、こう言った。「**確かにこの人も彼と一緒だった。ガリラヤ人だから**」。

ペテロは、「**あなたの言っていることは分からない**」と、その男の言っていることを否定してしまった。彼がまだ話しているうちに、鶏が鳴いた。

（３）外に出て激しく泣いた

官邸の中で裁きを終えられ、判決が下された主イエスは、官邸から出て来られ、《**振り向いてペテロを見つめられた**》。ペテロは、その主イエスの御顔を見た時、主イエスが、「**今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います**」と前もって告げられた御言葉を思い出し、外に出て、《**激しく**》泣かずにはいられなかった。

（４）私たちへの適用

①自分では失敗しないと思っている

最後の晩餐の後、主がペテロの失敗の予告をされたにもかかわらず、ペテロは、「**主イエス様。私はたとい牢獄でも、死でも、ご一緒に行く覚悟です**」と言ったが、あの時のあの決意はどうなってしまったのか。

ペテロは本気で、そう出来ると思って発言した。しかし、ペテロは失敗した。ここで大事なことは、自分でそう思っていることと、そのように出来るということは別だということである。

②簡単に崩れる者であることを分かっていない

私たちは、自分のことを一番よく知っているのは自分だと思っている。しかし実のところ、自分のことすら分かっていない。今の決心や覚悟が、次に起こって来る危険や攻撃に対して、簡単に崩れてしまうということが分かっていない。

平穏無事な時にする決心や覚悟は、平和や無事の時にはそのまま通用するが、いざわが身に危険が及んで来そうになると、変えざるを得ない。人間はだれでも生まれながら自己保身的であるから、そういう時にもなお身を挺して行く人はほとんどいない。主イエスはそのことをご存知であった。

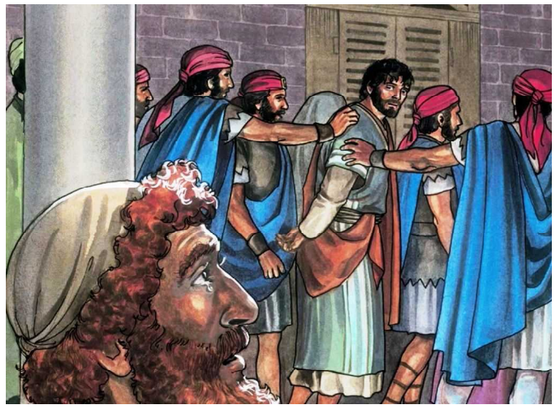
③なぜ立ち直ることが出来たのか

ペテロだけではない。私たちも全く同じである。主イエスが3年あまりの間、愛の薫陶をし続けてきた十二使徒の中の一番弟子であるペテロですら、失敗してしまった。

しかし、ペテロは立ち直ることができた。なぜ彼は立ち直ることが出来たのか。彼の信仰がなくならないように、主イエスが祈っていてくださったからである。

ペテロは、主イエスがペテロの失敗の予告をされた時、「**あなたは、私のことを知っているとおっしゃっていますが、私のことを一番よく知っているのはこの私です。たとい、あなたと一緒に死ななければならないことになっても、私は、決してあなたを知らないなどとは申しません**」と言って、主イエスの支えを自分の方から断ち切ってしまったがために、彼は失敗をし、主イエスの予告通り、3度も主イエスを知らないと言ってしまった。

④振り向いてペテロを見つめられた



主イエスは夜通し続いた大祭司カヤパの官邸でのユダヤ人議会による裁きの結果、死刑の判決が下された身であった。

その官邸から出て来られた主イエスは、ペテロの身を案じておられ、振り向いて、ペテロを見つめられた。

ペテロは自分の暖かい居場所を確保するために、一生懸命になって主イエスとは無関係であると言い張ることによって、愛する主イエスを裏切っていた。

その一方で、主イエスはペテロの信仰がなくならないように支え通しておられた。それが、この「**主は振り向いてペテロを見つめられた**」という短い文章の中に込められている、汲めども尽きない恵みの真理にほかならない。

⑤外に出て激しく泣いた

主イエスに見つめられたペテロの心には、主が語られ、また自分がやったことが走馬燈の絵のように思い出された。主イエスの目を通して、ペテロの心に働きかけられた主イエスの愛が氷のように固く閉ざされた彼の心を溶かした。

彼はその時、心から悔い改めた。その様子を、ルカは、「**そして、外に出て行って、激しく泣いた**」と記している。

ペテロは彼の信仰生活において、何度となく失敗している。しかし、そうした失敗をしたからもう駄目だと考えることはできない。彼自身、失敗をしたが、主は彼を立ち直らせて下さった。「**しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました**」と言われた主イエスは、つまずき、失敗しても、ペテロの信仰は、か細いながらもまだあるのだと言っておられる。

私たちの信仰も、時として失敗し、もう無くなってしまったかのように思われる時にも、か細いながらもまだある。か細い信仰がなくなってしまわないように、主イエスは私たちのために祈っていて下さるからである。